



「さようなら原発」集会に参加して

人、人、ヒト…。19日の午後1時まえ、JR・千駄ヶ谷駅に着いた電車からホームに降りる人。そこから、会場の明治公園まで途切れることなく、老若男女に、子供連れまで多くの人々が集会に向かっていました。会場には到着したものの公園内は、立錐の余地もないほど（実感です！）で中に入ることもできません。私は、歩道のわきに立って、挨拶を聞き、その後も続々と「現れる」多くの人に、驚きました。

大江健三郎さん、澤地久枝さん、内橋克人さんらの呼びかけで開かれた「さようなら原発」集会は、主催者発表で6万人の人が参加しました。東京電力・福島第一原子力発電所の事故が明らかにしたことは、原発が「危険」で、決して安全でもないし、信頼できるものでもない、ということでした。多くの人々が、「原発は危険だし、いらない」という意志を、行動で示そうという流れになってきたことを実感させるものでした。

パレード（昔風に言うとデモ）は、集会の終了を待たずに、渋谷・新宿・代々木の3つのコースに分かれて出発。私は新宿に向かうコースの先頭付近に加わって歩きました。外苑西通り→新宿通りの1車線をほぼ埋め尽くしていました。道行く人たちに「原発はいらない」「命と子供を守れ」「エネルギー源を変えよう」と訴えました。途中で、ビルを見上げると、窓から手を振っている人たちもたくさんいました。

解散地近くの新宿駅南口付近では、次々にまた、人、人、ヒト、でした。

ところが、驚いたことに、野田首相は23日に国連の会合で「日本は原子力発電の安全性を世界最高水準に高める」旨の発言をしています。事故の重大性を覆い隠していく、こうした新たな「安全神話」に対しては、「原発依存をやめる」「原発ゼロをめざす」、ということ、強く言っていく必要があると思います。また、この集会に示された力を一層強くすることも大切です。（代田2丁目・伊東 宏）

撮影：小澤 満吉
（代田5丁目）



本の紹介

「左右の垣根を超えて」と呼びかける
蓮池 透著

私が愛した東京電力

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会の事務局長として、数年前にはテレビでしょっちゅう写され顔を知らない人がいないとまで言われていた蓮池透さん。その後、拉致被害者家族連絡会が北朝鮮への経済制裁と圧力強化をすすめることに対して、蓮池さんは対話と交渉こそが解決の道と主張して排除された。しかし、拉致問題解決のために拉致 左右の垣根を超えた闘いへ、私もがわ出版 などの本を書いたり、講演などのとりくみをしてきた。

その蓮池透さんがこのほど、私が愛した東京電力を出した。サブタイトルに「福島第一原発の保守管理者として」とあって、3・11後、自分も推進してきたのだから加害者ではないか、そういう良心の呵責があります。ということでの発言となっている。

第一章 今回の事故はどういうものだったのか 第二章 東電は変わるか 第三章 自滅する原発 原発をフェイドアウトするために 現場での体験と働いている人たちが被害者へ寄り添っている蓮池さんの心根が伝わって胸を打つ。また、いま溢れる類書の中でもはるかに説得力がある。伊勢崎賢治氏との対談、拉致と戦争と原発を結ぶもの、も収録されて、ここでは政治の課題を深めている。

この原発の問題でも蓮池さんからのメッセージは、左右の垣根を超えてだ。
※かもがわ出版・1500円＋税

（代田5丁目・高岡 岑郷）

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

丸条リンゴ 好評4年目です

信州から「ふじ」が一番おいしい時期に送ってもらいます。とれたてをすぐ袋詰めして届けています。5個入り1000円。11月上旬～中旬にお届け。歯ごたえがあり甘くて香りがよく、リピーターが増えています。ご注文をお待ちしています。



青年劇場 普天間」をみて

かつて普天間基地で働き、組合活動をして、今はホットドッグの移動販売をする男とその家族、友人、沖縄国際大学へのヘリ墜落事件や多くの被害を訴え続ける女性や家族、など、いろいろな人たちが、沖縄の歴史・基地問題・日々の生活・米兵による犯罪について告発していく。そこには沖縄と本土の格差、沖縄への差別も語られる。

沖縄の海兵隊は実は役に立たず、米の戦略からも外れている？ グラム移転はもうない？ 基地をなくした方が雇用が生まれる？ 基地の地主の地代の平均は？？ などなど。あまりに情報量は多いが、作者の坂井洋二さんが、長い時間と労力をかけて取材されたことだと、パンフレットを読んでわかった。

1995年の米兵3人による少女暴行事件、沖国大のヘリ墜落も過去のことでない。基地問題と原発の問題はよく似ている、と作中のセリフがあった。

多くの人、もしくは国益のためなら、ということで、少数の人がギセイになっていいということはいえない。そもそも、米軍基地も原発も必要とは思わないが。
(代田4丁目・萱野 幸子)

憲法を軽視する野田内閣

野田内閣が発足して間もない頃、この内閣を象徴する出来事がありました。与党の前原政調会長が9月7日にワシントンで開かれた日米同盟に関するシンポジウムに参加し、自衛隊の海外での軍事行動について講演しました。問題はその内容です。国連平和維持活動(PKO)などで、共同行動する他国軍が攻撃を受けた際に、自衛隊が他国の軍隊と共同して武力の行使を行えるようにすべきである、と打ち上げました。現在、PKO活動は国際平和協力法のもとに行われており、「武器の使用は要員等の生命又は身体の防衛のために必要な最小限度に限る」とされています。氏の云う他国軍と共同した武力行使は、憲法に違反する海外での武力行使に当たります。

9月下旬には、野田首相自らが国連本部で演説し、独立して間もない南スーダンでのPKO活動に自衛隊を派遣することを表明しました。これまで、治安情勢の厳しさから派遣を見送っていた所です。したがって、ここでPKO活動を行うには、国際平和協力法の原則である停戦の合意が存在していることや、受入国などの同意が存在していることなどを踏み越えることが条件になり、PKO活動が憲法に抵触してきます。

これらの行動や言動からは、憲法を軽視する野田内閣の姿勢が見えてきます。首相は、所信表明で「正心誠意」を銘として掲げました。しかし、対外政策を見る限り、その片鱗も窺えません。先ず憲法に対して「正心誠意」で向かい合うことを求めます。心に留めるべきは、第九条の「戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認」です。諸国間の紛争の解決には、「平和的交渉」を手段とすべきで、時に当事者になり、時にお膳立てをする役目を果たさなくてはなりません。これを通してのみ、憲法が求める「国際社会において名誉ある地位を占めたい」とする目標に向かい合えることになるのです。
(代田2丁目・坂本 功)

集会等の紹介

11月3日(木・文化の日) 13:30～16:30頃

代田・丸条の会3周年のつどい

あいさつ 「住民自治と日本国憲法」

保坂 展人さん(世田谷区長)

歌 「無言館の歌」「一本のエンピツ」ほか

佐藤 真子さん(声楽家)

講演 「私たちは原発と共存できない」

小倉 志郎さん(元・原発技術者)

会場：東京都民教会(代田5丁目) 参加費：500円

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。